

## 【技術名】 水稲用除草剤散布の省力化

# 省力的に散布できる除草剤を導入しましょう！

### 【技術の要約】

散布の労力軽減が図れる除草剤の剤型として、畦畔からの投げ込みや散布が可能なジャンボ剤、豆つぶ剤、フロアブル剤などがあり、さらに水口施用ができる除草剤もあります。

### 【技術の内容】

- 1 散布の労力軽減が図れる除草剤の剤型にはジャンボ剤、豆つぶ剤、フロアブル剤、顆粒水和剤などがあります。
- 2 畦畔からの散布も可能です。一部のフロアブル剤や顆粒水和剤は水口施用が可能です。
- 3 水口施用は、入水時に水口付近に剤をあげ、流水とともに全面に拡散させます。水深5cm程度になったら水を止めます。
- 4 ジャンボ剤は水溶性パックに包まれています。1パック当たり20～60gで、10a当たり10個を投げ込んで施用するタイプが多く、省力性の高い剤です。
- 5 豆つぶ剤は10a当たり250gを投げ込むと、水面に浮かんで速やかに拡散し、軽量で省力性の高い剤です。
- 6 田植え同時に除草剤散布が可能な剤は田植え機に専用アタッチメントを取り付けます。散布量が正確で、均一な散布ができます。



図1 フロアブル剤の水口施用の状況



図2 水口施用したフロアブル剤の拡散状況

### 【留意事項】

- 1 いずれの除草剤も、散布後7日間は水田の水が水田外に流出しないようにします。
- 2 使用に当たっては、農作物病害虫・雑草防除基準を参照してください。